

# ちよつといい話

## 美の再生

生活している限り、何人の行動にも美しさがほしいと思います。容には外面的な美と内面的な美が相まって相乗効果を生み出してくる動きが要求されるでしょう。古来、ボロは着てても心は錦なんて粋がって居た様ですが心の眼（まなこ）が目の輝きと成って現れるのでしょう。目は口ほどに物を言うなんて、目は随分活躍するものである。古来僧侶は糞掃衣（ふんぞうえ）を身に纏っていました。糞掃衣とは端切れの丈夫なところを集めて縫い合わせ一枚の大きな布にしたものです。身に礼儀、作法が自然に備われば美しい姿となり、躰の完成となるのです。寺に居ると参詣の方々の合掌される姿が美しく見えます。最近若い方が場所を選ばず話をしたり、携帯電話をかけたり、歩きながら物を食べたり、マナー違反を平気でやっております。この光景に良識ある人は麻痺してしまったのか、そうでわありません注意して殺されたり、被害を被むったりするニュースの多さに辟易しているのです。もはや美しい社会環境や社会生活を取り戻す事は不可能なのか、出来ないのか、と思い悩む人もたくさん見える事でしょう。原因としては教育の失敗と家庭に於ける躰の失敗が大きいと思われれます。朝と晩に家族で佛様に手を合わせて御挨拶出来る家庭がいかほど御座いましょう。敬いのある、敬う事の大切さを忘れて欲しくないものです。自身のエゴと傲慢でわ共生は成り立ちません。墓地に立て札を立て注意を呼びかけましたが未だに捨てる人がいます。字は読めても判断する能力が欠如しているのです。全てにこの様な調子だと思われれます。佛教には清浄無垢とあり、清浄なる者には垢（あか）がない、と言う事です。要するに垢こそ諸悪の素なのです。社会から垢が無くなれば自ずから美が浮き上がってくるはずです。「美しいものにはとげがある」そのはずです、美しいが故に外敵から身を守らなくてははいけないのです。では世の中を再生させる清浄とは何ぞや、六根を清める事です。ちよつといい話第 19 号、25 号を参照して下さい。信州善光寺様で頂いたお札に「のちの世も、この世もともに南無阿弥陀仏、仏まかせの身こそやすけれ」と、皆さんと共に此の社会を守っていききたいものです。

善入院油掛地藏尊